

平成24年度 阿蘇小学校 研究の概要

1. 研究の全体構想

学校教育目標

健康で豊かな心と基礎学力を身につけた子どもの育成

<目指す児童像>

- 仲間の心がわかる子 (感性)
- 豊かに表現する子 (表現)
- ねばり強くやり遂げる子 (実践)

<目指す学校像>

- みんなで考え、みんなで作る学校
- みんなで歩み、みんなで伸びる学校
- みんなで働き、みんなで作る学校

研究主題

子どもが意欲的に読み取り、豊かに表現する国語科の学習指導

日常的な耕し

- ・ 今月の詩の音読
- ・ 音読集会での発表
- ・ 感想や手紙
- ・ 朝読書
- ・ 読み聞かせ
- 担任・指導員
- ・ 全校辞書引き
- ・ 読書カード掲示
- ・ チャレンジタイム
- ・ スピーチ
- ・ 作文掲示

国語科における視点

- 「単元計画の工夫」
- ・ つけたい力を明確に
- ・ ゴールを明確に
- 「学習活動の工夫」
- ・ 多様な言語活動から
- 「音読指導の工夫」
- ・ 理解のための音読
- ・ 表現のための音読

地域と共鳴する活動

- 「阿蘇小カルタを
つくろう！」
- ・ 全校でカルタ（俳句）
作りに取り組む。
- 地域の自然
- 継承されている文化
- 学校のよさ
- 「地域に伝わる
昔話の語り」
- 「わらべうた」
(国語・音楽・体育)

図書館教育

- ・ 読書指導
- ・ 情報処理能力の育成

基盤となる力

「国語の経験」「国語の知識」「教養・価値観・感性」

2. 研究主題

子どもが意欲的に読み取り，豊かに表現する国語科の学習指導
＜重点＞子どもたちに「表す力」をつけるための単元開発と授業実践

◎意欲的に読み取るとは・・・{理解する力}

- 達成すべき目標を明確にとらえることで、「よし，読んでみよう。」という気持ちになる。
- 文章の内容を理解し，想像を広げたり，自分の考えを広げたりすることができる。

◎豊かに表現するとは・・・{表す力}

- 自分の考えていることや想像したことを話すことができる。
- 友達の考えや話を聞くことができる。
- 自分の考えや思いを書くことができる。

3. 主題設定理由

(1) 児童の実態から

本校は、八千代市の北部に位置し、水田や梨園・畑を有する自然豊かな環境にある。また、本年度137周年を迎え、「代々阿蘇小卒業」という家庭も多い。3世代家族も多く、世代間の交流経験を持っている。反面、多くの人との関わりや多様な経験をしていない児童も多い。穏やかに友だちのよさを認めあえる反面、積極性に欠ける面がある。語彙の少なさも課題と言える。

(2) 平成23年度完全実施の指導要領から

今回の改訂の基本方針が以下のように示されている。

言葉の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

(文部科学省 「小学校学習指導要領解説 国語編」 東洋館出版社)

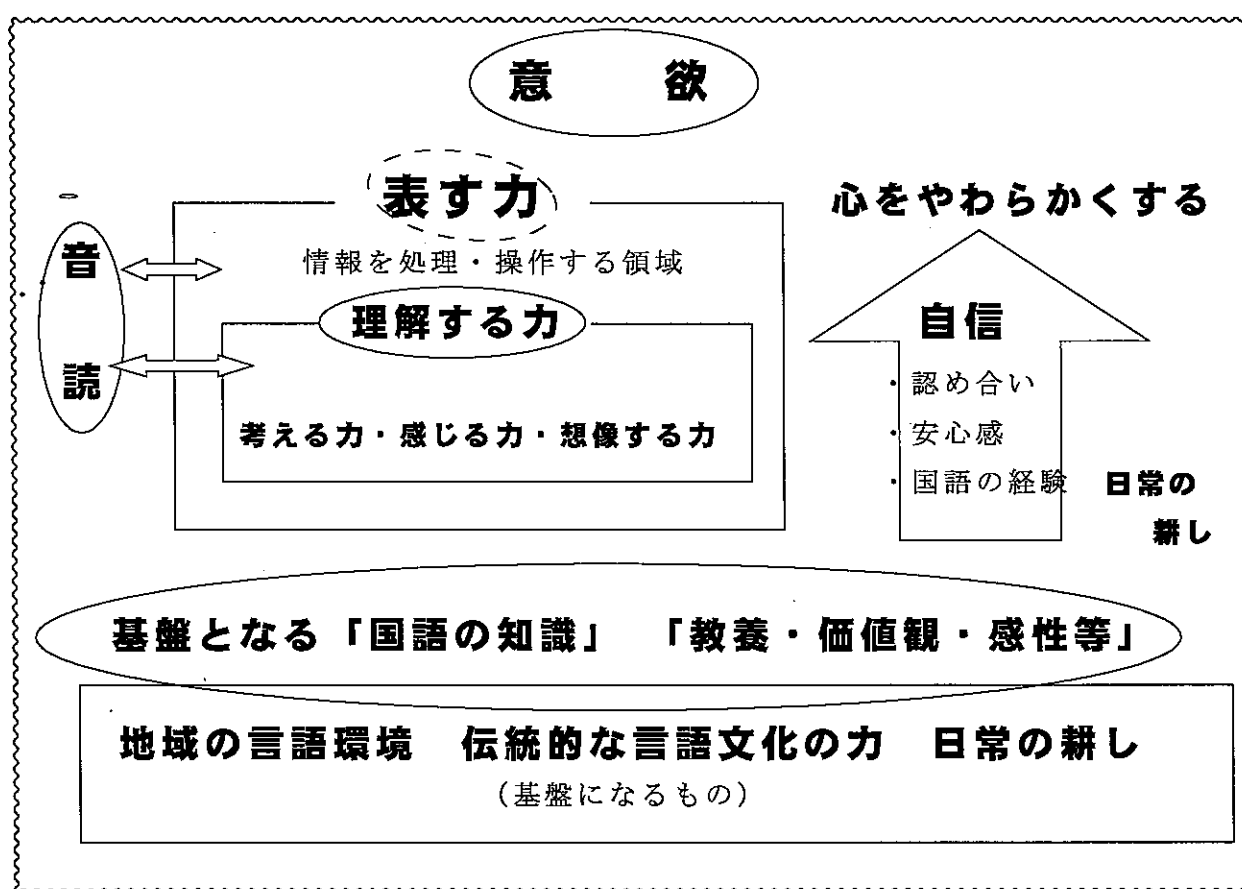
国語科での学習が各教科の基礎となり、実生活に生きることが必要であると示されている。そのために多様な言語活動が示された。身に付けさせたい能力を明確にし、様々な言語活動を工夫して、学習指導にあたることが大切である。

(3) 国語力との関連から

文化審議会答申の「これからの時代に求められる国語力について」の中で、国語力の構造を以下のように示している。

①考える力、感じる力、想像する力、表す力からなる、言語を中心とした情報を処理・操作する領域
②考える力や表す力などを支え、その基盤となる「国語の知識」や「教養・価値感性等」の領域

①で「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を総称し、「言語を中心とした情報を処理・操作する領域」と示された。



本校では、「理解する力」を、「考える力」「感じる力」「想像する力」の統合する力ととらえている。それらが成熟し、表出されるのが「表す力」であると考えている。本校研究では、国語学習の中で「理解する力」を身に付け、「表す力」を高めていきたい。

「表す力」が発揮されるためには、情意面の成長が不可欠である。内包する物がどのような段階で表せるかは、個人差が大きい。ここを教師が看取ることが、「表す」ことを支える。そこで「日常の耕し」を仕組む。「俳句作り」や「むかしばなしの語り」は、日本語の持つ言葉の力をかりることができる。これらの取り組みは、本校児童の内面に働きかけることだろう。また、「認め合えるあたたかな環境作り」も不可欠である。表すことへの壁を低くし、自信を持って表す子への足がかりとなるだろう。

4. 本年度の重点について

そこで本年度の重点を

- ・子どもたちに「表す力」をつけるための単元開発と授業実践とした。「表す力」を「理解する力」を包括する力として捉え、実践していきたい。

5. 研究の内容

- 3つの視点
- ①「単元計画の工夫」
 - ②「学習活動の工夫」
 - ③「音読指導の工夫」

視点1「単元計画の工夫」について

(1) 研究内容

- ・意欲的に読みとり，豊かに表現するために，単元の学習指導をどのように計画したらよいか。

－単元を計画する上で考慮すべき点－

- 単元を通じて国語科としてどんな力をつけさせたいのかはっきり明記する。
- 一題材の学習ではなく、単元全体を通じての学習であることを意識する。子どもたちにゴールが見えている単元構成にする。
- 単元の導入を工夫する。

(2) 研究方法

- ・授業研究単元で検討し，計画立案・実践・評価を行う。
- ・授業研究時に単元の学習指導の経過について説明し，計画が効果的であったか分析する。

視点2「学習活動の工夫」について

(1) 研究内容

- ・意欲的に読みとり，豊かに表現するために多様な学習活動を工夫する。

－学習活動の工夫として－

学習活動のねらい	学習活動の方法
●人物の心情を読み取ったり考えたりする。	○吹き出し ○役割読み ○動作化 など ○意見交換

●言葉について理解したり考えたりする。	○ワークシート ○動作化 ○ペープサート ○絵を描く など
●段落の要点をまとめる。	○中心文を見つける。 ○ワークシートの活用 など
●場面の様子や情景を理解する。	○ビデオを見る。 ○絵を描く など
●自分の考えを伝える。	○個で考えを持つ ○二人組での意見交換 ○班での意見交換 ○全体へ広める など

(2) 研究方法

- ・「文章の姿」を作成し、文章を丸ごと読む。
- ・学習問題や発問を吟味し、思考を深める手がかりとする。

視点3 「音読指導の工夫」について

(1) 研究内容

- ・読みを深め、豊かに表現するための音読はどうあるべきなのか。

－音読力を高めるための具体的実践－

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●授業の中で音読指導を行い、読みに対する抵抗を少なくする。 ●家庭学習として「音読カード」を用い家庭音読を行う。 ●読み取りの指導の中で人物の心情や場面の様子を考える時、随時音読を入れる。 ●学習したことを音読によって確かめたり表現したりする。 ●多様な音読を経験させるなかで、音読の技法も習得させる。 ●読みとりのための音読と、表現としての音読を指導者が意識する。 |
|--|

(2) 研究方法

- ・下、上学年単位で家庭音読カードを作成し、随時見直しをする。
- ・授業の中にどのように計画し、実践したのか授業実践後、授業記録を基に分析する。
- ・国語以外の教科等でも積極的に音読を取り入れる。

6. 研究方法

(1) 教師の授業力アップ・全員参加の研究

・全校での授業作り ・全職員での指導案検討・授業検討

<p><授業相談日></p> <p>①授業者から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元名 ・単元の流れ ・めあて ・何がわからないのか <p>②授業者以外から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイス <p>*ここで方向性を決める。 指導案はいりませんが、 資料があるとよいです。</p>	<p><指導案検討></p> <p>①授業者から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 何をねらうのか ・手だて どうやって ・どんな姿になれば○なのか (評価基準) ・資料・学習カードは何を使うのか <p>など</p> <p>②授業者以外から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される子どもの反応 ・具体的な手立て <p>③講師の指導</p>	<p><授業後の話し合い></p> <p>①授業者から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できたか ・できたことが何で 課題が何か ・児童の様子から <p>②参観者から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できていたか (具体的な場面からの指摘) ・次の授業に生かせること ・共通課題として残った こと <p>など</p> <p>③講師の指導</p>
--	---	--

(2) 全校での日常の耕し

全校辞書引き大会をしよう！！

・全校辞書引きは、3年目を迎えます。2年生から6年生まで辞書引きを経験していることから、辞書引きを楽しむための方法を考えました。

○辞書引きプリントの掲示

会議室前にプリントを掲示します。毎月2枚です。合格者は、名前を掲示します。

○全校辞書引き大会（ゲーム集会）

体育館にて、全校で辞書引きをします。優勝者には、認定書を。

阿蘇小カルタを作ろう！！

昨年度：阿蘇小に関連する俳句作りに全校で取り組む。

・行事に関連して

潮干狩り 貝より先に かに探し

・季節毎

・季語を廊下掲示 季語カード配布

・月毎に募集し、掲示

・よい俳句は、学校便りに 校内放送で

今年度：俳句募集・カルタづくり

・五十音じゅんに2セット作成

7. 国語科における阿蘇小の目指す子ども像

話す

- 1・2年—大きな声ではっきりと話すことができる。
- 3・4年—相手や目的に応じ、筋道を立てて話すことができる。
- 5・6年—考えたことや伝えたいことなどを的確に話すことができる。

聞く

- 1・2年—聞いたことを話したり、聞いた通りにしたりできる。
- 3・4年—話の中心に気をつけて聞き、意見や感想を持つことができる。
- 5・6年—相手の考えをつかみながら聞き、自分の考えを持つことができる。

書く

- 1・2年—順序に気をつけて、ていねいな字で書くことができる。
- 3・4年—段落を考えて書くことができる。
- 5・6年—自分の考えを効果的に書くことができる。

読む

- 1・2年—書かれている事柄の順序、場面の様子に気をつけて読むことができる。
- 3・4年—中心となる言葉や文をとらえて、段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができる。
- 5・6年—目的に応じ内容や要旨を把握しながら読むことができる。

音読

- 1・2年—語や文としてはっきり音読することができる。
- 3・4年—間違えずに正しく音読することができる。
- 5・6年—句読点に気を付けて、なめらかに音読することができる。

話し合い

- 1・2年 自分の考えや意見を伝えたり、友達の考えを聞いたりすることができる。(近くの友達)
→○はっきりと話す。
○目を見て、うなずきながら聞く。
- 3・4年 友達の考えを聞いて、自分の意見と比較し、相違点をはっきりさせることができる。(3～4人ぐらい)
→○自分の意見を伝える。
○質問をする。
- 5・6年 話し合いの進め方がわかり、意見を述べ合い、考えを深めることができる。(3～4人ぐらい)
→○根拠を明確にして話す。
○意見を交流しながら、より質の高い意見にする。

8. 今までの研究

- 第1期 国語科研究・・・昭和44年度～50年度 (7年間)
 第2期 健康教育研究・・・昭和51年度～60年度 (10年間)
 第3期 国語科研究・・・昭和61年度～現在 (25年間)

研究主題の変遷

- 昭和44年度 「正しく読み取る力を高めるための指導は、どのようにしたらよいか。」
- 昭和47年度 「国語力を高めるための読書指導は、どのようにしたらよいか。」
- 昭和51年度 「自らを育て高める健康教育」
- 昭和61年度 「読み取る力を育てるには、どのようにしたらよいだろう。」
- 平成3年度 「子どもが意欲的に取り組み、読み取る力を高めていくためには、どのようにしたらよいだろうか。」
- 平成11年度～現在 「子どもが意欲的に読み取り、豊かに表現する国語科の学習指導」

9. 本年度研究計画

月 日	研究内容	講 師	備 考
4. 3 木	研究の方向性(主題・仮説)割り振り		
12 木	単元検討(授業研・公開)		
25 水	講話 本年度の研究	中澤先生	
5. 17 木	指導案検討①(5年・6年)		5/22 ミニバス大会
24 木	指導案検討②(1年・2年)	横堀先生	
31 木	授業研究①(5年・6年)	中澤先生	5/29(火)校長室訪問
6. 5 火	指導案検討③(3年・4年)	横堀先生	6/8 修学旅行
26 火	授業研究②(1年・2年)	横堀先生	
7. 3 火	授業研究③(3年・4年)	中澤先生・横堀先生	
7/1～20	公開単元の実態調査		
7. 24 火	実践発表会に向けて相談日(下)	横堀先生	出勤日
25 水	実践発表会に向けて相談日(上)	中澤先生	出勤日

8. 27 月	実践発表会指導案検討（校内）		出勤日
28 火	実践発表会指導案校内締め切り →講師の先生へ届ける		
9 / 1 ~	秋季大運動会準備		9/18 秋季大運動会
9. 6 木	実践発表会指導案検討		
9. 20 木	実践発表会指導案を見合う 低・中・高別→修正し提出		・ 9/21 に研究主任と 副主任で最終点検
24 金	実践発表会指導案返却		
10 / 1 ~	実践発表会指導案印刷		
10. 4 木			3. 4年校外学習
11 木	実践発表会指導案製本		
18 木	授業準備		
25 木			総合体育祭
11. 8 木			11/7・8 市内音
12 ~ 15	環境関係準備週間（15日完了）		
15 木	環境関係最終確認（16日修正）		
11. 22 木	実践発表会	中澤先生・横堀先生	
29 木	実践発表会実践報告作成①		12/8 けやき祭
12. 6 木	実践発表会実践報告作成②		
13 木			短縮日課
20 木			終了式
1. 17 木	今年度研究の成果と課題・各自		
24 木	今年度研究の成果と課題・全体 次年度研究の方向性		
2. 7 木	実践報告製本		
14 木	講話	中澤先生	
21 木	学力テスト処理		学力テスト

10. 研究組織

